

中日ニューズ

シネスコ版

山口新聞コース No.144 本編同ジ

高知新聞 No.303

新愛媛新聞 No.131

No. 468 38.1. 4

一、新春の皇室一家

浩宮さまもすくすくと成長され、すがすがしいお正月をおむかえになった皇室一家。お揃いで散歩を楽しまれる天皇陛下も、もっぱら浩宮さまのお相手でよきおじいさまぶりをみせておられます。二月には満三歳になられる浩宮さまに、若いご両親のおひざもとのびのびと育たれしきりに腕白ぶりを発揮しておられます。それをごらんの天皇陛下は目に入っても痛くないご様子です。

アイモ風土記

一、出雲の正月 (那珂 後編)

— 島 根 —

日本海の高鳴りとともに明け暮れる平田市小伊津部落、季節風の吹き荒れる冬の間は漁にも出られずひっそりと冬ごもりの生活を送っています。

海でありながら、海の幸に乏しくのりのつく岩場もみんなの共有地として部落の統制のもとにおかれてきました。

きびしい風土の中で、祖先があみだした生活の智恵が今日なおそのまま生きているのです。こうした風土は正月風俗の中にも深い根をおろし、村に四十軒を数える佐藤姓の家では、お雑煮も里イモがお餅の代用。風変りな里イモ雑煮にこの土地の歴史が語られているのです。

そして日本神話のふるさととして古い伝統をもつ出雲の正月は「歳神さん」の行事に代表され、各部落には歳神というほらがあって正月になると若衆がここに集まり、一種の共同生活をする風変りなおまつりなのです。

6ten

110x

140x